

そこで兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によつて、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

11月22日
第4聖日
第3430号

「石のような心」

聖言

そこで私は、主にあつて言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなししい心で歩んでいるように歩んではなりません。彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています。 エペソ4：17，18

礼拝の恵み 第二二章
第九節 礼拝の場所
第二節 具体的な場所については、礼拝はどこでも、どんな場所でも、行われている。
礼拝には地理的な限界というものは無い。北極でも、南極でも、本当に礼拝することができる。また建物というものも、それが信者のある仲間にとつて、特に悪天候の場合には、大きい便宜であることには相違ないけれども、しかも礼拝のために必要というわけではない。そのような建物の大きさや、建築費や、設計などは、礼拝の価値とはなんの関係もない。「ふたりまたは三人が、私の名によつて集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」(マタイ一八ノ二〇)との、主の御言葉は、建物や場所などの価値についての間違つた考えを一掃してしまう。集会を清めるのは、信者たちの真中にキリストがいますからであつて、信者たちのいる建物の種類ではない。人々が建てた壮大な高価な建物は、そこでささげられる礼拝の価値なり意義なりをちよつとでも増加するものではない。事実、こうした建物の多くはただ、時間と金銭との莫大な空費を示しているだけである。教会史の初期には、信者たちはしばしば礼拝のために仲間の信者の家庭に集まつた。それで聖書にもときどき「その家にある教会」(コロサイ四ノ一五、ローマ一六ノ五)と記されている。しかしこれは、もちろん、古くて倒壊しそうな家を建て、会合場所として使えという意味でない。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年一月二五日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「愛のうちに建てられる」

「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」(エペソ四ノ一六)

祈り

秋も深まってきました。神戸マラソンであわただしい中に、こうして神の家族として信仰のマラソンに加わっていることです。共に礼拝の喜びを分かち合える幸いを覚えます。しかし、この場に来れない信仰の家族を思うときに胸が痛みます。神様、わたしたちがみな信仰の大人になり、優先事項を弁え、永遠の運命に関わる信仰の家族の建設の為に満ち満ちた神の力によって成長させてください。

高層建築の杭の偽装が明るみに出されました。まさしく、イエス様が語られた、砂の上に建てられた家と岩の上に建てられた家のたとえ話のようです。国の介護離職をゼロの政策は、五〇歳台の社会的中堅世代の親の介護負担を軽減するための計画です。教会においても生活為に信仰に手が回らない状況です。今日の聖書箇所は私の悩みは誰も知らない。と苦しむ方とキリストによって組み合わされているのです。ゆえに喜びも、苦しみも共に共有しているのです。あの人のような不幸に会わずによかったと言うのではなく、共に苦しむのです。そこに初めて嬉しいときは共に喜んであげることが出来るのです。

また一つ一つの部分とは個人の事です。現代は個人主義の時代です。信仰は個人的にイエス様にお会いして教えられることが大事で、他の人々のことを干渉しません。それとともに一つ一つの部

分がその力量に相応しく働く力が大切です。労働を苦しみとせず、福音の証人として、与えられた場所です。それぞれの賜物を最大限に發揮するのです。一人の偉大な人物より、各自が自己の能力を最大限に發揮するほうが抛り効果的な働きがなされます。

そなえられたあらゆる結び目。これは体の間接のことです。女性は加齢で骨がもろくなる割合が多い。クリスチャンは間接のように骨どうしを組み合役目があります。愛のうちに立てられるというのは、利益を追求するのではなく、愛というキリストの犠牲によって教会を建ててののです。量的成長より、霊的成長を優先するならば、子どもの成長は止められないように、教会もおのずと大きくなります。

二〇一五年一月一八日午後七時 祈祷会 山本牧師

「命の水の川」

「彼は私を神殿の入り口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東のほうへと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、宮の右側の下から流れていた。」

(エゼキエル四七ノ一)。

エゼキエルは御使いに神殿の入り口に連れられて見ると神殿の敷居の下から水が東へ流れ、一千キュビト毎に測ると足首、腰、頭を越すほどになり、泳いで渡らねばならないようになる。このような川はありえない。さらに水が死海まで流れ込むのはヨルダン川とおなじであるが、違うのは水が流れ込むところに魚がすむようになり、川の両岸に生えた木は毎月実がなり、葉も葉になる。

まさに黙示二二章の神の都の中央を流れる命の水の川である。霊的には神殿とはキリストであり、水とは聖霊である。サマリヤの女に「しかし、私が与える水を飲む者はだれでも、決して渇くこ

とがなく、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」(ヨハネ四ノ一四)。また仮庵の祭りに叫んだ生けるみずである。「さて、祭りの尾張の大きいなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。私を信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。』」(ヨハネ七ノ三七、三八)。

創立六七周年・記念会式次第

二〇一五年二月三日(月) 午前一〇時 記念会

司式者 岡山聖成キリスト教会 足達和章先生

司会者 イエス・キリスト聖成伝道教会山本稔先生

奏楽者

一、前 奏

一、賛 美 歌(我が教会) 会衆一同

一、祈 禱 庄司久子 姉

一、聖 歌 二〇二

一、説 教 足達和章先生

「聖霊の前進」 使徒二章一〜四

一、聖 歌 五八 四

一、献 金 会衆一同

一、祈 禱 西田潔嗣先生

一、頌 栄 会衆一同

一、祝 禱 足達和章先生

一、六七年の回想 有 志

一、賛 美 歌 四〇